

教授 星 宏人 (Hiroto Hoshi)

研究シーズ

【外国語・言語】 【教育・子ども・心理】 【社会福祉】

専門

言語学・英語学

研究キーワード

言語コミュニケーション（インタラクション）の
プロセス・統語（文法）構造・意味構造



研究テーマ

言語コミュニケーション（インタラクション）の
プロセスに注目した動的な言語研究

研究の概要

ヒトの言語コミュニケーション（インタラクション）のプロセスに注目し、ヒトが心の中に順次どのように統語構造・意味構造を創りだしているのか、そのプロセスを研究しています。

これまで多くの言語学者は、ヒトの文法性判断を文法的であるか、文法的でないか、その言語運用の「プロセス」ではなく、「結果」として捉え研究してきた(cf. Chomsky 1965, 1981, 1995, etc.)。しかしながら、私は、ヒトの文法性判断は一つの言語運用の「プロセス」であり、その「結果」ではないと論じ、このため言語運用のプロセスを捨象して研究する生成文法理論には決定的な問題があり、この理由により生成文法理論はヒトの文法性判断を根本的に説明できず、ヒトの言葉の根本的特徴を捉えられない、と論じています(cf. Hoshi, H. (2026) “Explaining the Process of Linguistic Judgements: Evidence for Dynamic Syntax,” 『東北公益文科大学総合研究論集』第51号, pp. 65-82. ISSN 1880-6570)。

セールスポイント

ヒトの言語コミュニケーション（インタラクション）のプロセスに注目して、ヒトの言葉の文法を「静的(static)」ではなく、「動的(dynamic)」に捉える (cf. 動的文法理論 (Dynamic Syntax): Kempson et al. 2001, Cann et al. 2005, Kempson 2015, 2017, etc.)。

想定される用途・応用例・活用例

- ・言語情報処理
- ・言語（英語・日本語・手話など）教育